

水資源の豊富な秋津島・水穂の国日本の平均年間降水量は、約 1700mm。トンボが飛び回った作物の実る国。連日ニュースが流れ来る砂漠の国イラクのバクダッドは約 155mm。恵まれた国土と天与の資源に改めて感謝。今年に入り、BSE、コイヘルペス、鳥インフルエンザ。次々に発生する動物を巡る大災害のオンパレードに終わりが見えない。

共通点の 1 つ。何れも、天然の動物や魚類が直接の原因ではなく、人間の食糧としての家畜であり、人工的に養殖・促成の生物食糧が主体。

京都の鳥インフルエンザの影響と新種ウィルスによる人類に対する警告・脅威に、茶の間は呆然。汚染食材は、近代の流通システムの大発展で、瞬時に世界を駆けまわる。迅速な初期情報の公開が最も必要であることが明かされた。

原因や感染経路等、慎重且つ厳格に調査解明が望まれるが、一方で風評被害が拡大してしまう事も事実。

さて、仮想水（バーチャル・ウォーター）という言葉をご存知だろうか？ 農産物や工業製品を生産するのに必要な水の量。啓蟄が過ぎ、多くの生物が再活動。梅雨に向かい、最も降水の多くなる農業の季節。既に、食料自給率 40%は先進国で最低。世界最大の食料輸入に頼っており、実はこの仮想水の輸入もダントツの一位。

即ち、国内で食料を生産したと仮定した場合に必要な水資源を、米国を筆頭に、中国やアジア各国から輸入（肩代わりしてもらっている）している。これらの多くの国・地域で、生物由来のウィルス被害が発生中。将来、バーチャルどころか、リアルの水問題に発展する可能性を指摘しておきたい。

東大の沖教授などの試算では、日本の総水資源使用量（約 900 億 t/年）の約 2/3 を仮想水として輸入。アジア各地の水質・降水量を考えると、我国は本気で、世界の水問題に貢献する責任があると思うがいかが。

限られた国土に急峻な山岳からなる列島は、洪水対策も世界有数の難しい地域。水に関する意識を高め、世界にその知識や技術を提供することが、我国の瑞々しさを維持する道。人の体の 2/3 近くは水という、日本はみずくさいと言われたいもの。